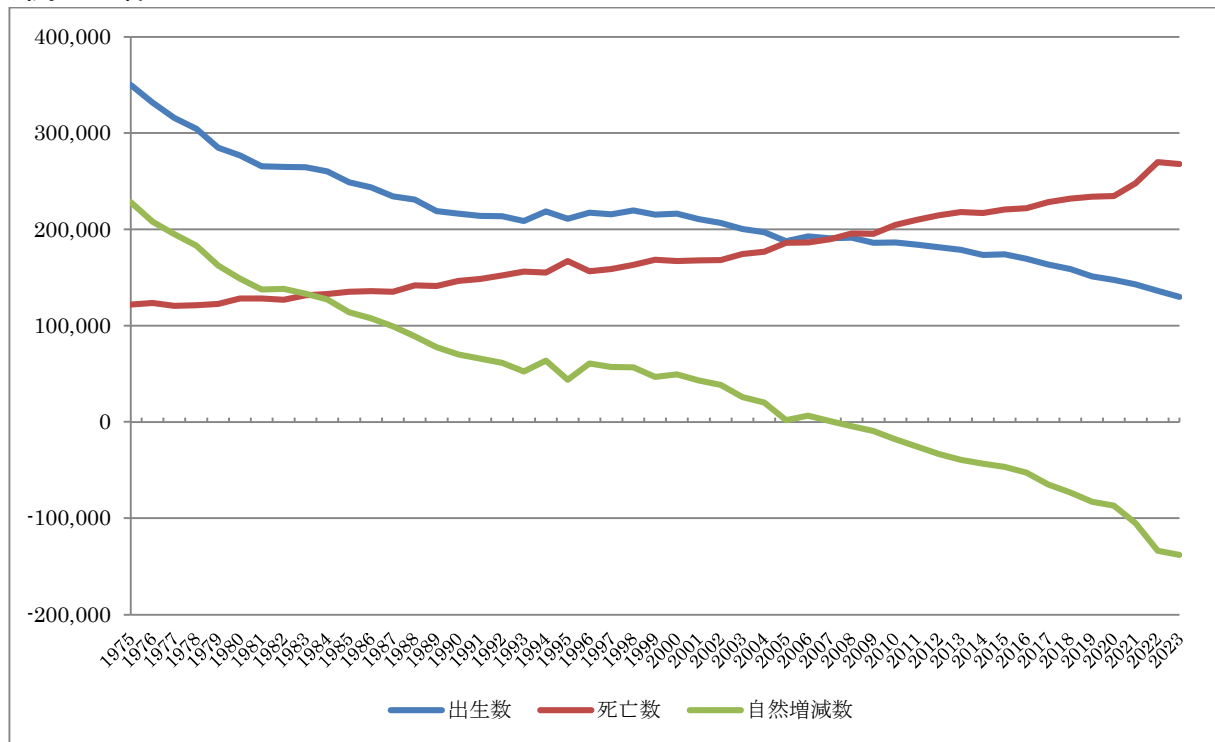


【出生数・死亡数】（令和6年11月更新）

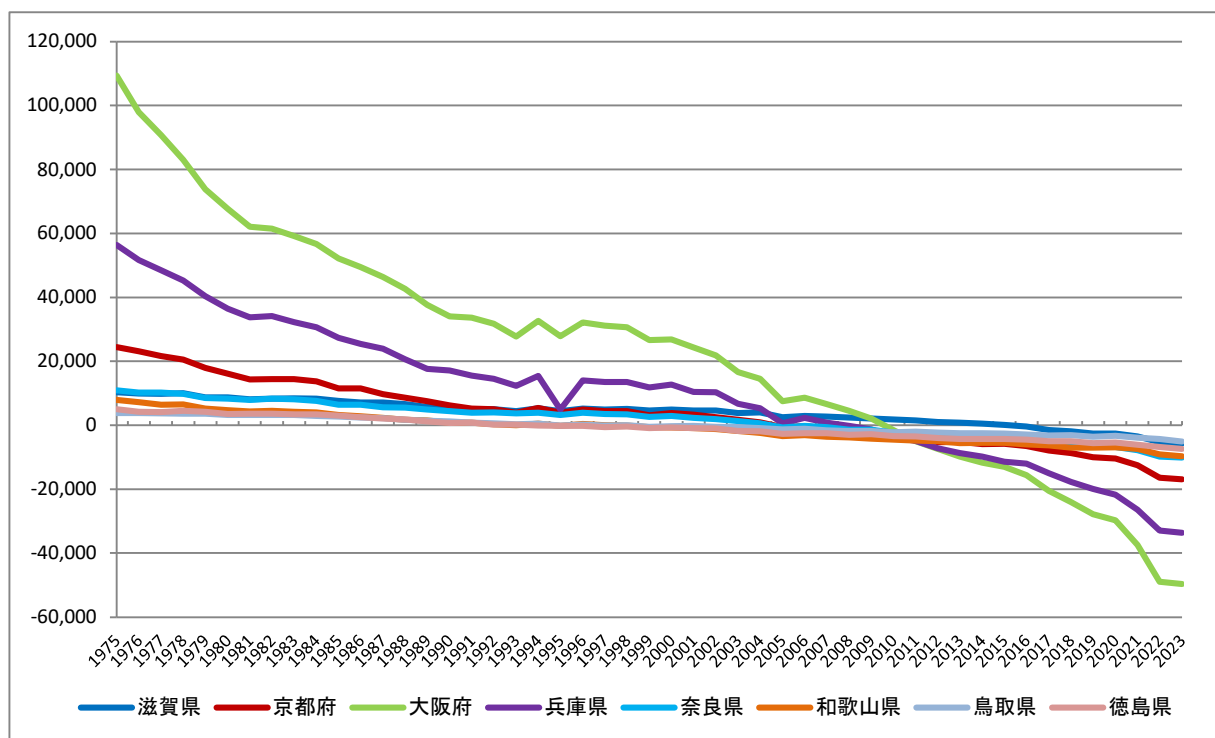
- ・ 自然増減数は減少傾向が続いてきたが、2008年以降、死亡数が出生数を上回る自然減となっており、今後もこの傾向が続くと考えられる。
- ・ 今後も自然減の増大が見込まれ、人口減少の主たる要因となる。

関西全体



（出典）厚生労働省「人口動態調査」

府県別自然増減数

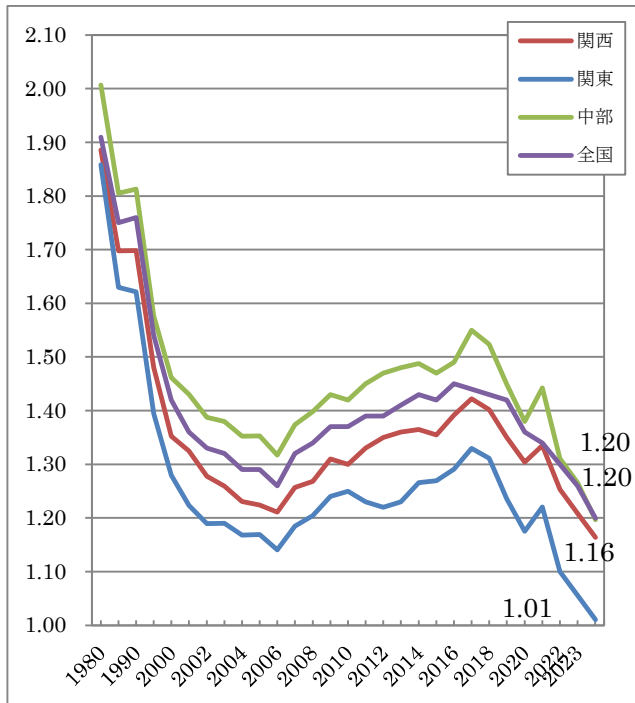


（出典）厚生労働省「人口動態調査」

【合計特殊出生率】（令和6年11月更新）

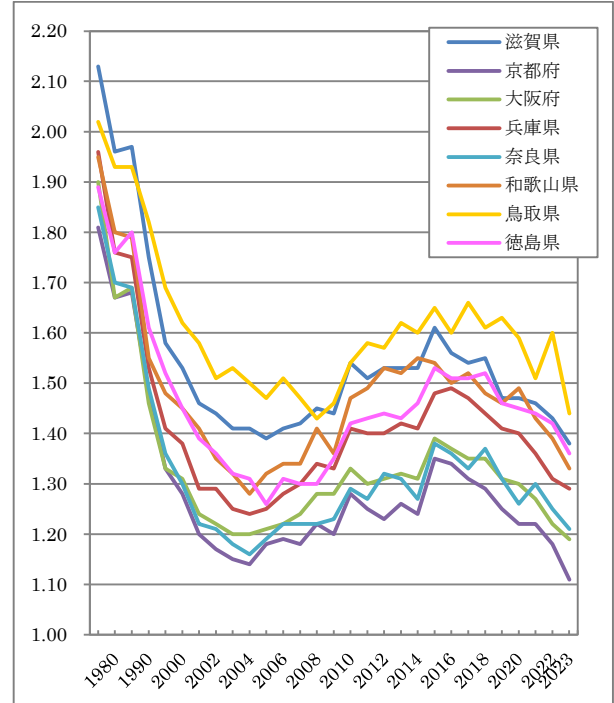
- ・ 関西は、2023年は1.16であり、全国より低い水準になっている。
- ・ 関西圏域の府県では、すべての府県において2022年より低下している。

〔各圏域の合計特殊出生率〕



（出典）総務省「人口推計」 厚生労働省「人口動態調査」をもとに作成

〔各府県の合計特殊出生率〕

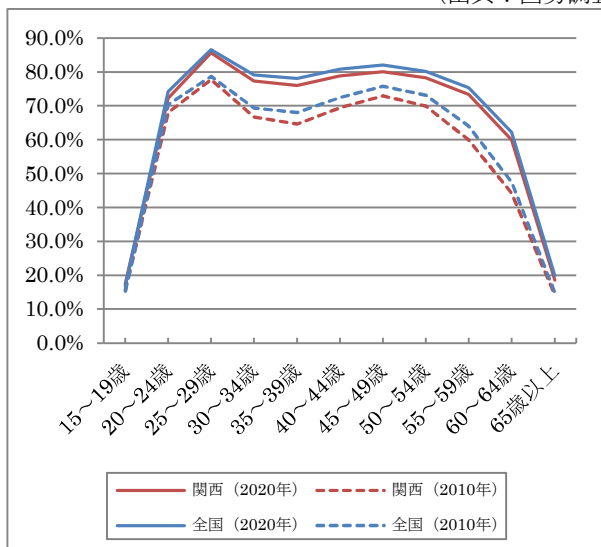


（出典）厚生労働省「人口動態調査」

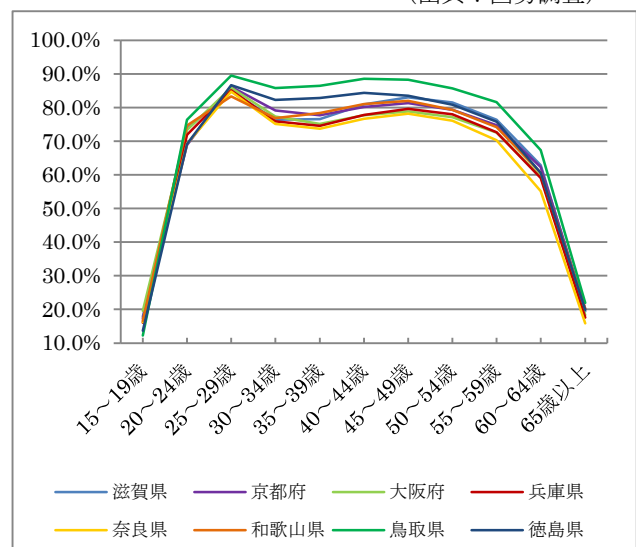
【女性の労働力率】（令和4年11月更新）

- ・ 関西は、全国に比べ、女性の労働力率のM字カーブの谷が深く、40歳台以降の回復の幅も全国に比べて低い。
- ・ 府県別では、鳥取県、徳島県の労働力率が高く、M字カーブの谷も小さい。一方、奈良県や大阪府、兵庫県は、M字カーブの谷が深く、40歳台以降の回復の幅も小ぶりとなっている。

（出典：国勢調査）



（出典：国勢調査）



※府県別データは2020年

【未婚率】（令和3年12月更新）

- ・ 2015年から2020年にかけては、男女ともすべての年齢層において未婚率が減少している。
- ・ 上昇率では、男女とも35～39歳の未婚率の上昇率が高くなっており、1980年と比較すると4倍程度の伸びを示している。

（出典）総務省「国勢調査」

